
ギー太に首ったけ

クリア

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ギター太に首つたけ

【Nコード】

N4459P

【作者名】

クリア

【あらすじ】

私の心を鷺掴みにするギター太。いつも添い寝をしたり、服を着せたりする程に愛しているだが、弦交換のため1日だけ離れ離れになっ
てしまひ・・・

あなたとの出会い、私の生活は180度変わった。
運動をしている時や勉強をしている時でもあなたの事しか考えられ
ませんでした。

私はあなたの事が好きです。愛してます・・・

「唯先輩、たかがギターの弦を変えるだけで泣かないで下さい」

「だってえ・・・ぐすっ」

私は涙を流しながら、店員が持っているギター太を見つめた。今日
の練習で弦がボロボロな事に気づき交換しに行ったのだが、そのお
店がよりによって忙しい様で帰ってくるのが明日になってしまった。
今日は帰ってこない・・・そう考えただけで胸が張り裂けそうに
なってしまった、私は再びギター太に抱きついた。

「・・・ギター太あああ！！明日ぜっつたいに来るからねっ！！」

「あつ、あの・・・もういいですか？」

店員の申し訳なさそうな声に私はしぶしぶ頷いた。

その帰り道、私はギター太を担いでいない妙な重さに襲われていた。

ああ・・・君がいない時ってこんなに軽いんだね？

「唯、元気だしなよ？明日には帰って来るんだしさあ」

「そつだぞ、唯。 たった1日だけじゃないか」

「そつよ、唯ちゃん元気出して」

りっちゃん達が必死に励ましてくれるのは素直に嬉しいけど・・・
この軽さが・・・

「というか、ギターの弦交換でここまで泣く人初めてみましたよ・・・」

ぎっ、ギターの弦交換っ！？ギター・・・ギターアア！！

「・・・梓あ、お前のせいで唯がまた泣いちゃったじゃないか」

「へっ!? あっ、すいません!!」

あずにゃんは慌ててペコペコと謝ってきた。

「良いんだよ、あずにゃん・・・あずにゃんの言ってる事はもっともなんだからさ・・・」

私は何も考えずに遠くを見つめた。今は・・・近くのものを見た
くは無いよ。

「唯ちゃん・・・目が死んでるわ」

「ああ、こりや重症だぞ・・・」

りっちゃんとムギちゃんが心配する中、私は心に穴が出来た気分で家に帰っていった。

『ふっふっふっ、私の名前は怪人21面相・・・悪いが君のギー太は盗ませてもらうよ?』

「だっ、駄目!! ギー太を返してっ!!」

『それではさらばだっ・・・はっはっはっ・・・』

「ぎっ、ギー太ああああああ!!」

「ギー太ああああああ!!」

私は叫び声と共にベッドから飛び起きた。 荒い息と共に目に映るのは、見慣れた自分の部屋だった。

「ゆっ、夢!? 夢だよね!？」

私はパニックになってしまい、周りをキョロキョロと見渡した。
そしてある事に気がついた。

「ぎっ、ギー太がいないっ!？」

血の気が引くのが分かる。どっ、どうしよう・・・怪人21面相にギー太を取られちゃった!!

「たっ、大変だあ!!」

大急ぎで外に出るために着替え始めようとした時、机の上にある

小さなメモの存在に気がついた。　チラリとそのメモを読んでみると、内容はこうだった。

『お姉ちゃんへ、ギー太は弦交換でこの家には無いけど、あのお店にちゃんとあるから安心してね。　憂より』

「そっかあ・・・お店に預けたんだっけ」

気が抜けてしまい、ペタリとその場に座り込む。そして、心の奥底から安堵が染み込んできた。

「よかった・・・本当に・・・よかった」

そう思いながら部屋を見渡すと、小さな服が目映った。その服は普段ギー太に着せているものだった。

「・・・ギー太」

そういえば、今日はギー太に毎日の習慣の様に着せ替えや添い寝をしてないね・・・君の弦から出る素敵な音も・・・聞いてないね

・・・

「ギー太あ・・・!!」

ポロリと涙が流れてくる。　君がいないだけでこんなにも寂しいなんて・・・思わなかったよ。

「・・・今日はもう寝よう」

明日、君に会えることを信じて・・・

心の奥底から寂しいと思いつながら、ベッドに横になる。　そんな私にお月様の光だけが、温かく照らしてくれた。

次の日、私は寝不足の状態で学校へ行った。　憂はすごく心配してくれたけど、私はギー太と再会するために学校へ向かう。

授業の内容はまったく頭に入らず、私はただギー太との再会だけを考えていた。

もしギー太が怪人21面相に盗まれてたらどうしよう・・・知らない人に間違えて持っていかれたらどうしよう・・・

そんな不安を抱きつつも放課後になり、部活動が始まった。

「今日は練習を早めに終わらせて、唯のギターを取りに行こうぜっ！
！」

「りっちゃん、私はそれに大賛成！！」

「今日は私も律達に賛成だ」

「私もです。唯先輩の大切な楽器ですから」

皆、私の為に・・・

「みんな・・・本当にありがとうっ！！」

「いいのよ唯ちゃん。私達は誰一人、唯ちゃんの悲しむ顔見たくないから・・・」

「そうだぞ。唯が笑っていないところまで狂うからさ」

「ですね。私も唯先輩が嬉しそうに抱いてこないから調子が狂うんです」

「梓・・・その発言はちょっと・・・」

「みつ、濤先輩！！私はそっちな人ではありませんからねっ!？」

「梓ちゃん・・・私は良いと思うわ」

「ムギ先輩までっ!？」

あずにゃんが皆にからかわれて顔を真っ赤にしている、それはいつも私が見ている軽音部の風景だった。

けれど、そんな風景を見て心から嬉しく思った。皆が私を優しく心配してくれる・・・それがとても嬉しくて、幸せだと思った。

「みんな・・・ありがとう」

そう呟くが、周りの音に消されてしまった。

「お待たせしました。ギターを返品しますね」

店員がそう言って丁寧にギターを私に返す。ズシリと感じる慣れた重さ、練習中に出来た小さな傷、そして私の心を驚つかみにする綺麗な赤。

・・・間違いない、本物だ。本物のギー太だっ！！

「ギー太アアア！！ 会いたかったよお！！」

そう叫び、1日ぶりにギー太に頬ずりする。

嬉しいよ・・・また会えたね・・・ギー太ッ！！

「まったく、君がいなくて本当に寂しかったんだよっ！！」

話もしない無口なギターに私は怒るのだが、あずにゃんに「唯先輩、ここはお店の中ですよっ！！」と中断されてしまった。

昨日とは違い、ズシリと気持ちのいい重さを感じながら、私は上機嫌で帰る。

「これからはギターのメンテナンスだけはしっかりして下さいね？」

「分かってるよあずにゃん」

私はそう言っただけにあずにゃんに抱きつく。

「なっ！？ 人が見えてる中で抱きつかないで下さい！！」

「えへへへ、あずにゃんはやっぱり可愛いねえ」

私は心の奥底から嬉しかった。ギー太は私にいつも幸せを持ってきてくれる存在だなあ・・・

いつも幸せを感じさせてくれるそんなギー太を私は改めて大好きになった。

「ふっふっん・・・今日はダンディだねえ」

昨日できなかった着せ替えを私はたっぷり堪能していた。

私は喜んでいるけど、ギー太は何も言わない・・・ただツンとギタースタンドに掛けられているだけ。

けれど、それがギー太の可愛いポイントだと私はいつも思っている。

「次はねっ・・・っってもうこんな時間かあ」

私は時計を見てそう言った。いつもなら寝てる時間帯を軽く2時間は過ぎていたのだ。

「今日の私は寂しいからギー太も一緒に寝ようね」

ゴロンとベッドに横になって、その隣にギー太を置く。傷が付かないように優しく布団をかけて完成

「今日も明日も、ずっとずっと一緒に寝ようね、ギー太」

「けっ、誰がそんな面倒な事するかよっ」

「ええ〜!! いいじゃん!!」

「お前みたいなの甘えん坊は、俺嫌いなんぞね」

「そんなぁ・・・」

「・・・と言いたい所だが、今日だけは見逃してやるよ」

「・・・ギー太あ!!」

1人芝居をやって嬉しくなり、ついぎゅっとギー太を抱きしめる。

ギー太は堅くて優しくなかったけど、そんなギー太が好き!!

今日はこれでもうおしまい。少し寂しいけど、私も眠たくなってきた。

「明日から軽音部の皆と一緒に練習頑張ろうね? ギー太」

そう呟いて、私はゆっくりと瞼を閉じていった。

もう怖い夢なんてへっちゃらだ。だって私の隣で世界一頼もしい彼氏が一緒だから!!

(後書き)

唯がギー太を手放した時を想像したら、すらすらつと書けました。

やっぱり大切な物と少しでも離れるのは、ちよつと寂しいですよね

ww

感想や意見等は募集です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4459p/>

ギー太に首ったけ

2011年2月22日22時12分発行